

「クライアントと生活者、クライアントと地域、クライアントとクライアントをつなぐ」『あらかると』は株式会社ケンオリが発行する社外報です。

a la carte.

2020.8

あらかると

403



この街と人が好きだから 中合福島店

この街と人が好きだから 中合福島店

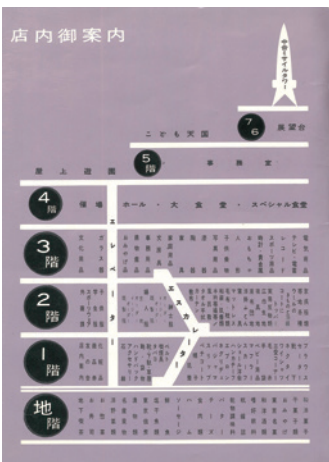
近江商人の行商だった創業者が1874年に呉服屋を始めたのが中合のはじまりでした。中合という社名は1935年に「中村合名会社」から株式会社会社に改組する際に付けられたものです。以来、福島顔として長年親しまれてきました。初売の福袋を買い求める長蛇の列は正月の風物詩となり、中合の包装紙で包まれた商品は贈り物としても大変喜ばれました。中合は福島市民だけでなく多くの県民から支持され愛され続けてきました。



▲創業当時の呉服屋時代



▲大町時代 屋上のミサイルが目印に



▲大町時代のフロアマップ

中合福島店の歴史

1874年	福島市荒町に中村呉服店開業
1913年	福島市大町へ移転
1938年	百貨店業へ
1954年	東北初の百貨店友の会「中合友の会」発足
1961年	中合ミサイルタワー完成
1973年	現在のJR福島駅前に移転
1978年	ダイエーと提携
1998年	隣接地に2番館開業
2010年	ダイエーの完全子会社に
2017年	2番館閉館
2020年	8月で閉店



▲現在の福島店建設時の駅前の様子



▲駅前移転オープン時の様子



▲オープン時には開店前から長蛇の列が

初売

福袋はもちろん、近年では千本引きや初夢大吉じゃんけん大会、お年玉付きお買物券などたくさん企画で人々を喜ばせてきました。



▲多くの方が初売の福袋を買い求めに並びました



物産展

普段なかなか買うことのできない県内外の名産品を購入できる人気の企画でした。



中合は今年8月31日をもって閉店します。現在中合のある建物は2022年に解体となります。福島駅前の再開発ビルは商業施設だけでなく分譲マンションやホテル、オフィス、コンベンション施設などが入る予定で、県内最大規模になる見込みです。2026年の開館を目指していますが、再開発の前倒しに向けた動きもあります。駅前の空洞化は購買行動の変化にも影響するため、早期の開館が望まれます。今後の動向に注目です。

